

# ぶらネットこまき

<http://www.komakichiku.com/> (古牧地区住民自治協議会広報紙)



第133号

古牧だより通算226号

## 願い事がかないますように 川端天神社 登龍門祈願祭

1月3日(日)に川端天神社で登龍門祈願祭が開催されました。今年小学校に入学する16人、受験生や家内安全を願う区民など83人が、矢澤速久宮司の祝詞を賜った後、拝殿に願い事を記した絵馬を掛けて成就を祈願しました。

川端天神社は「学問の神様」として信仰を集める菅原道真公を主祭神とするお社。登龍門祈願祭は平成7年(平成6年度)から続く行事です。今年で27回を迎え、川端区民のみならず市外、県外からも参拝者が訪れます。

本年度は新型コロナ感染防止対策のため、検温、手指の消毒、テーブルや椅子、ペンなども使用するたびに消毒。マスクの着用、換気、また密を避けて行いました。実行委員の



気遣い、特に和田光男委員長のご碎身は例年にはないものでした。

祈願に訪れた人たちの願い事が叶い素晴らしい一年になるよう祈ります。

(川端区通信員)

## 各地で「どんど焼き」「お焚き上げ」

新型コロナの関係で恒例の「どんど焼き」は、感染拡大防止の観点から規模を縮小して行われたり、「どんど焼き」を中止して区役員による「お焚きあげ」で松飾りなどを焚きました。



五分一区のどんど焼き (1/10)



中村区のどんど焼き (1/10)



東和田区のお焚き上げ (1/10)

## お蚕さんの思い出

古牧郷土史研究会 平林区 宇佐美 憲 一

このところ蚕を飼育している場面に、お目にかかった事はありません。

当区の平林でも昭和47年までは僅かながらも飼育していました。高度経済成長期で桑畑が宅地化したり、住宅の新改築、桑畑近くでの果樹園消毒、化学繊維普及等が飼育からの撤退要因ではなかっただろうか。

春・秋蚕の時期は子供たち、猫までも手伝いをしたものでした。

A4判程の木枠に入っている卵から、部屋の温度管理をしながらふ化させ、葉を細かく切って与え、さらに大きくなると棒付きの葉を与えて成長させま

す。棒付きを与える頃は居間・茶の間・座敷の畳を上げて蚕に占領され、寝る場所は物置・土蔵に移りました。夕方や学校が休みの日は、びく一杯に葉を取り、時には小さな指に葉を採る鎌を付け、棒付きの桑は厚刃鎌で切取りリヤカーに乗せて、子供はその後押しをして帰りました。「八幡隅が暗くなると雨になる」と言われ急いで帰った事も。雨で濡れた桑棒は物置で乾かしてから蚕に与えました。蚕が桑の葉を食べている時の音は、今でも懐かしく聴こえてきます。



右側が養蚕大神で明治27年安達神社境内に村で建立した。  
(左側 白鳥社)



昭和24年日本蚕糸振興会名誉会長であられた、昭和天皇の皇太后が玉木宅(現当主 敏明氏)の養蚕をご覧になられた事を記念して、玉木さんの自宅庭に建立されたもの。

### しゃばえんひつ



## 大雪

1月中は、年末年始の降雪から始まり、毎週末の降雪、積雪が繰り返されました。

年末年始には市内の各地で約15センチの積雪が見られ、散歩で通った守田神社の狛犬も積雪で、白化粧をしていました。

ここ数年雪不足であったため、雪のレジャー関係者には待望の恵みの雪ですね。

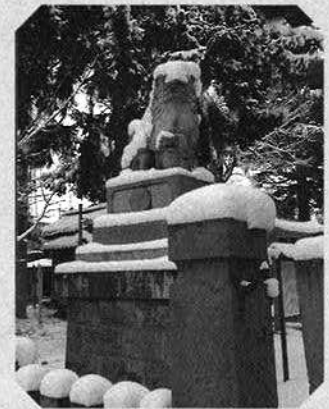
ただ、道路に積雪があると交通事故や転倒事故を引き起こす原因ともなるので、注意が必要です。

今年はラニーニャ現象の影響で寒くなる予想

とのことで、今しばらく雪への備えは欠かせません。

早朝の除雪は大変ですが、それでも、こんな気の引き締まるような寒さと雪が長野県らしいのではないかと感じています。

1月を過ぎても新型コロナウイルス感染症の収束は依然として見えませんが、雪解けと共に収束・・・とは難しいそうですね。  
(谷本)



## 2月から3月までの主な行事実施日▶▶▶ (回覧でお知らせします)



### 古牧地区の世帯数と人口

令和3年1月1日現在

11,664 世帯

26,861 人

(男 13,246人 女 13,615人)

■発行所 古牧地区住民自治協議会  
(電話259-8359・FAX219-1057)  
(E-mail: komaki@vivid.ocn.ne.jp)

■発行者 小林 信男  
■編集 ふらネットこまき編集委員会  
■印刷 (有)小池印刷



HP  
ご覧ください